

## チマルパイン『日記』の試訳 (その1 : 1577～1599年)

篠原 愛人

### はじめに

メキシコ先住民チマルパイン（1579～17世紀半ば）のいわゆる『日記』（1577～1615年の同時代史）の全訳を何度かに分け、試みる。300ページ近くある原文の詳細については参考文献に挙げた拙稿を参照されたい。紙幅の関係で本稿では詳細な説明は避け、訳の紹介に徹する。同じ理由で注も極力少なくした。

### 【凡例】

底本としたのはラファエル・テナによるスペイン語訳（以下、西訳）とジェイムズ・ロックハート、スーザン・シュローダー、ドリス・ノメイラによる英語訳（以下、英訳）で、訳に疑問がある場合は両書のナワトル語テキストの翻刻、パリのフランス国立図書館（BnF）所蔵原本のデジタル・テキストも随時、参照した。なお、西訳と英訳の違いが著しい場合、対比できるよう後ろにもう一方の訳を〔(英訳／西訳)〕として示した。

日付の表記：チマルパインはアステカ暦の年の名前（数字と記号の組み合わせ）と西暦を併記している。スペイン語表記の月は算用数字（1月、2月…）、ラテン語表記の月は漢数字（一月、二月…）にした。日にちの表記もローマ数字と算用数字が混じるため、訳でも原文の表記に従った。

地名・人名の表記：基本的に原文に従ったが、ナワトル語地名が崩されて現在の地名となっている場合、初出時は両方を併記（後者を〔 〕書き）し、その後は現在の地名を使った。

キリスト教聖人名：教会名、地名や個人名に使われ、何を指すか明記されていない場合も少なくない。教会や区の名前には(教会)、(区)などを付し、原文で明記されている場合は( )を外した。

聖人や聖人像の場合は「聖～（ラテン語名）」とし、個人名や教会名に含まれる聖人名は「サン～（スペイン語名）」とした。なお、教会、修道院、礼拝堂などの違いは全て無視し、「教会」とした。

「メシコ」：国ではなく、「メキシコ市」を指す。なお、注では市は「メキシコ市」とし、「メキシコ」はヌエバ・エスパーニャ（注1参照）または現在の国を指す。

「区」：メシコ・テノチティトランの4つの先住民居住区域。先スペイン期の区割りをほぼ引き継ぎ、それぞれ聖人名をつけてサンフワン・モヨトラン、サンペドロ・ソキアパン（またはテオパン）、サンセバスティアン・アツァクワルコ、サンタマリア・クエポパンと呼ばれた。なお、「地区」は「区」の下位区分<sup>トラシラカリ</sup>を指す。

斜字体：チマルパインがスペイン語の単語や表現をそのまま使っている箇所は、地名や人名も斜字体にした。ただし、先住民の氏名のスペイン語部分はこの限りではない。

{ }は欄外や行間にチマルパインが挿入した語句や文章。[ ]で挿入箇所(ページの上・下・左・右の余白)を示していない場合は、行間への挿入。

( )は訳者が補った語句。[ ]は補足説明や西訳と英訳の違いを示した。原文の抹消線は訳でも残した。

## 【本文】

[f.17r] VII - 家の年、1577。この年、一月のXXXI日(間)、疫病が流行った。二月のXXVIII日(間)、疫病が流行した。3月のXXXI日(間)に収まった。そしてこの間にヌエバ・エスパーニャ<sup>1</sup>各地で死者が出た。死んだのは我々先住民と黒人で、スペイン人はほんの少ししか死ななかった。そしてこの年、よく目立つ尾のある彗星がはっきりと現れた。それはキラキラ輝き、まだ少し陽の光がある頃に見え始めた。そしてこの時、かつてしていたように君主たちのために線引き<sup>トラワナリストリ</sup><sup>2</sup>が行なわれた。同じくこの時初めて、跣足<sup>デスカルソ</sup>フランシスコ会<sup>3</sup>の神父たちがやってきた。彼らは中国<sup>4</sup>へ行く途中、立ち寄っただけだった。{ [上]この年、マザー・テレサ・デ・ヘスス<sup>デ・ラス・モラダス</sup><sup>5</sup>が『靈魂の城』という本を執筆した。}

VIII - 兎の年、1578。この年、イエズス会、テアティノ会<sup>6</sup>(の教会)へ宗教行列が行われた。ローマから届いた聖遺物<sup>7</sup>や聖人の遺骨をそこに安置するためだった。行列は大聖堂から出発した。

IX - 葦の年、1579。この年、フランシスコ会修道士で我らの尊きアロンソ・デ・モリーナ師<sup>8</sup>が亡くなった。彼は私たちの説教師だった。この時また病気が流行り、鼻血が出た。病は猛威を振るい、多くの人々が亡くなった。またこの時、クリスマスにはサンタクララ会の修道女たちがペトラカルコ(地区?)に来て、今もそこにいる<sup>9</sup>。最初にいたトリニダー(教会)から移った。最初は在俗司祭が彼女たちの監督をしていた。

X - 石の年、1580。この年、副王ドン・マルティン・エンリーケスがメシコ市を出て、ペルーへ向かった。メシコを13年間統治した。しっかり治めた。この時また、副王コルーニャ伯ドン・

ロレンソ・スワレス・デ・メンドサが着任した。彼はエンコミエンダ<sup>10</sup>がなかった。メシコには10月4日火曜日、聖フランシスコの祝日に到着した。同じくこの時、跣足フランシスコ会の神父たちも着いた。彼らは今、(サンコスメの)<sup>ワエルタ</sup>菜園<sup>11</sup>とウィツィロポチコ[チュルブスコ]にいる。10月IX日の日曜日に、再び、星が煙を吐き始めたらしい。{[下]どこでも見え、長く尾を引いていた。西に向かった。}

XI - 家の年、1581。

XII - 兎の年、1582。[f.17v]この年、七月XXII日、マグダラの聖女マリアの祝日に、水道がサンフワン(区)まで来た<sup>12</sup>。12月31日には(サンフワン)市場の水汲み場に水が滴り始めた。この時に市場の水汲み場が使われ始めたが、(工事は)6年かかった。

XIII - 葦の年、1583。この年、メシコの全ての水路の修理、清掃<sup>13</sup>が行なわれた。あらゆる村から人々が(手伝いに)やってきた。この時、篤信女らがウィツィラン(地区)のサンタモニカ教会に住むようになった。またこの時、サンギジェルモ・トトラパン<sup>14</sup>に出現した磔刑像が運び込まれた。枝の(主日の)2日前にサンパブロ(教会)に着き、その後サンアグスティン(教会)へ運ばれた。聖職者は皆、アウグスティヌス会士も、フランシスコ会士も、ドミニコ会士も、在俗司祭も、テアティノ会士もショロコ(地区)までその像を迎えに出た。またこの時、ドミニコ会士たちも初めて宗教行列を出し、我らの神<sup>15</sup>の受難を見事に表現した。この時、六月XXIX日の使徒聖ペテロと聖パウロの祝日に、君主コルーニャ伯ドン・ロレンソ・スワレス・デ・メンドサが亡くなった。彼はメシコをしっかりと統治した。遺体はサンフランシスコ(教会)に埋葬された。治めた期間は2年と8ヵ月と33日9ヵ月だった。{[右]ドン・ロレンソが亡くなるとすぐに、大司教のドン・ペドロ・モヤ・デ・コントレーラス<sup>16</sup>が副王になったとする記録もある。}

I - 石の年、1584。メシーカ人<sup>17</sup>がテノチティトランに来て260年になる。<sup>アルカルデ・デ・コルテ</sup>刑事裁判官<sup>18</sup>のサンティアゴ・デ・ベラが中国に向け出発した。同行した4人の笛奏者は引き返してきたが、アトリショカン出身のチリミアス奏者だけ同行した。この時、靈的指導者でメシコ大司教のドン・ペドロ・モヤ・デ・コントレーラスがヌエバ・エスパーニャの<sup>ビシタドール・ヘネラル</sup>総巡察官に任命され、<sup>ゴベルナドール</sup>総督、<sup>インキシドール・マヨール</sup>副王、<sup>インキシドール・マヨール</sup>主席異端審問官を兼ねた。[f.18r]副王のドン・ロレンソ・スワレス・デ・メンドサが亡くなり、大司教が総督と副王を兼任した。またこの時、どの修道士も、フランシスコ会士も、アウグスティヌス会士も、ドミニコ会士もどの村でも(教義を)教えてはならないとされ、在俗司祭が代わりに来ることになった<sup>19</sup>。どの村の領主たちも(これを)拒み、修道士に仕えようとした。大聖堂が改築されたのもこの時だった。

II - 家の年、1585。この年、<sup>サンクト・コンシリオ</sup>聖教会会議<sup>20</sup>を記念して宗教行列が行われた。サントドミンゴ(教会)を出て、サンアグスティン(教会)まで行き、全司教が行列に参加した。ドミニコ会士でワシャカク[オアハカ]司教のバルトロメ・デ・レデスマ師、ドミニコ会士でシャリシュコ[ハリスコ]司教のドミンゴ・デ・アルソーラ師、ドミニコ会士でカンペチェ司教のグレゴリオ・モンタルボ師、聖ペトロの在俗司祭でトラスカラ司教のドン・ディエゴ・ロマーノ、アウグスティヌス会士でミチョアカン司教のフワン・デ・メディーナ師、ヒエロニムス会士でクワウテマラ[グアテマラ]司教のゴメス・デ・コルドバ師だ。最後には<sup>カズラ</sup>上祭服、<sup>ミト</sup>司教杖、<sup>ミト</sup>司教冠を身につけた大司教が登

場した。司教たちは皆、ケープを羽織っていた。これは1月20日、聖セバスティアヌスの祝日に行われた。会議の終わった聖ルカの日(10月18日)には、金、土、日と3日連続して宗教行列が行われた。1585年の11月17日、副王ドン・アルバロ・マンリーケ・デ・スニガ[ビジャマンリケ侯]が到着した。彼はカルメル会の神父を連れてきた。{[左]月曜日、1585年1月XV日、聖堂の聖歌隊席が崩れた。教会会議はそこで行われる予定だった。}[右]この年になって初めてメシコ大司教は副王・総督の任に就いたとする古い記録もあるが、上で述べたように、そうではない}

III - 兎の年、1586。この年、日曜日、1月19日にカルメル会士たちがサンセバスティアン(教会)に入り、所有権を得た<sup>21</sup>。彼らはサントドミンゴ(教会) [f.18v]を出て行列を組んでやって来て、そこに住むと宣言した。この修道士たちは跣足と呼ばれ、我らの愛しい聖母サンタマリア・デル・カルメンの息子たちとも呼ばれる。

またこの時、今日、{水曜日}、聖バルナバの祝日6月XI日の午後に、霊的指導者の大司教ドン・ペドロ・モヤ・デ・コントレーラスがカスティージャへ向け出発した。メシコを16年間治めてきた。彼が霊的指導者の大司教になったのは異端審問官になって3年目で、大司教を10年間も務めた。{[行間、右]彼はスペインへ発つ際、自分の代行として聖堂参事会<sup>22</sup>の学校理事<sup>マエストレスクエラ</sup>ドン・サンチョ・サンチェス・デ・ムニョン博士を(大聖堂と)大司教区全体の代行、総代理<sup>23</sup>に任命した。大司教であり、我らの主君たる国王の諮問会議のドン・ペドロ・モヤ・デ・コントレーラスに代わって治めるためだ。}

IIII - 葦の年、1587。

V - 石の年、1588。この年、疫病が猛威を振るった。またこの時、跣足修道士とフランシスコ会士が特使<sup>24</sup>を巡って対立した。この争いはしばらく続き、高等行政司法院<sup>アウディエンシア</sup>に持ち込まれた。フランシスコ会士たちを調査するため、教皇が派遣した特使が巡察官<sup>フェス・ビンタドール</sup>としてやってきたのはこの年で、木曜日の10月XIX日に着いた。

VI - 家の年、1589。この年、火曜日、4月10日に地震があった。4月26日に再び揺れた。とても強く揺れ、その後、2回目の揺れがあった。{[左：全文スペイン語] 1589年5月22日、聖霊降臨祭の2日目、グレゴリオ・ロペス<sup>25</sup>はかの荒涼としたサンタフェに行った。亡くなるまでそこで祈りと瞑想の鍛錬を続けた。}

今日、月曜日、7月9日、副王侯爵の娘ドニャ・フランシスカ・ブランカがコヨアカンで亡くなった。彼女のためにサンホセ(教会)<sup>26</sup>でミサがあげられ、サンフランシスコ(教会)に埋葬された。

水曜日、使徒聖アンデレの祝日前夜{木曜日11月XXX日}、フランシスコ会士たちにサンフワン教会の所有権が与えられた。聖アンデレの祝日にその教会でミサがあげられた。同じくクエポパン(区)のサンタマリア(教会)も与えられた<sup>27</sup>。所有権を与えたのは刑事裁判官のセルバンテスだった。

土曜日、8月5日、雪の聖母サンタマリア・デ・ラス・ニエベスの祝日に、モンセラットの聖母像がサンフワン(区)のテキスキパン地区に安置された<sup>28</sup>。{[左]木曜日、11月30日、これらの言葉は下に続く。}<sup>29</sup>

[p.1] {[上]上の言葉はここに続く。} 今日、水曜日、1589年11月29日サンフワン(教会)とサンタマリア(教会)の所有権が侯爵の命令でフランシスコ会に与えられた。当時の修道院長はブエナビントウラ師、管区長はドミンゴ・デ・アレサガ師だった。

12月30日、我らの親愛なる神父、聖堂参事会員のフワン・ゴンサロ<sup>30</sup>がアウエウエトランの聖母ご訪問(教会)から戻ってきた。そこで苦行を積んでいた。

VII - 兎の年、1590。月曜日、新年の1月1日の午後、先述の我らの親愛なる神父、聖堂参事会員のフワン・ゴンサロが亡くなった。彼はアウエウエトランの聖母ご訪問(教会)に住んでいた。ここメシコへ戻り異端審問官のお宅で亡くなり、大聖堂の棺に安置された。

木曜日、1月XVIII日副王の侯爵ドン・アルバロ・エンリーケス・マンリーケ・デ・スニガが去った。ここでの5年間の統治を終え、スペインに向け出発した。

今日、木曜日{あるいは金曜日}、1590年1月25日{聖パブロの回心の祝日に}副王のドン・ルイス・デ・ベラスコ2世がメシコに到着し、入城した。第2代副王老ドン・ルイス・デ・ベラスコのご子息だ。

今日、日曜日、1590年2月XI日サンフランシスコ教会建築のための基礎が祝別された。サンティコメンダドール<sup>コメンダドール</sup>の副王ドン・ルイス・デ・ベラスコや聴訴官<sup>オイドール</sup>が列席した。

2月V日、我らの愛する神父ベルナルディーノ・デ・サアグン師<sup>31</sup>が亡くなった。トラテロルコにおられたが、サンフランシスコ修道院内に埋葬された。その葬儀にはトラテロルコの領主たちが皆、参列した。

その年の4月最後の月曜日、副王の命令でメシコの水路の清掃が始まった。1カ月でテツココ[テスココ]、トラコパン[タクーバ] [p.2]、メシコの全ての水路が清掃された。{[下]サンフランシスコ教会が閉鎖され、そこでミサがあげられなくなった。日曜日、8月XXVI日。}

10月VII日、ドン・カール5世の子息で、スペイン国王ドン・フェリペの兄、ドン・アントニオ<sup>32</sup>がクイトラシュコワパン[プエブラ]で逮捕された。それまで彼はポルトガルに住んでいた。{月曜日、10月29日にメシコへ連行され、武装蜂起を企んだ廉で告発され、王宮牢に幽閉された。}

日曜日、10月XIII日、サンホセ(教会)の右側にご聖体<sup>33</sup>が安置された。サンフランシスコ教会の取り壊しが始まり、スペイン人はそちらでミサを聴くようになった。

VIII - 葦の年、1591。月曜日、2月4日にサンホセ(教会)で教皇シクストゥス5世の追悼ミサがあげられた。ドミニコ会、アウグスティヌス会、テアティノ会、カルメル会、跣足、メルセス会など全ての修道士が参列した。また、副王も列席した。

火曜日、2月V日、跣足の神父たちにサンイポリト(教会)の前(の敷地)の所有権が与えられた。副王の命令により、市の判事や市会員の方々はそこに教会を建てるべく彼らに土地を与えた。ドン・マテオ・デ・モレオンというスペイン人貴族が教会を建設する誓いを立てており、建造のために12,000ペソの金を提供した。

日曜日、3月末日、誓いを立てたスペイン人たちが聖フランシスコ教会の取り壊しにかかった。メスティソ、チチメカ人<sup>34</sup>、黒人やその他のスペイン人もそうした。

聖金曜日の4月12日、サンホセ(教会)に悲哀の聖母信徒会<sup>ソレダール</sup>が新たに設立された。管区長のド

ミンゴ師、修道院長のブエナベントゥラ師デフィニドールと顧問ら修道士の呼びかけでできた。ヘロニモ師とフランシスコ・デ・ガンボア師が、これはメシコの人たちだけの会とすると[p.3]宣言した。

月曜日、4月29日、将来のサンフランシスコ教会の測量と区画分割が行われた。これにより外壁を立て始めることができた。

日曜日、1591年6月IX日、ドン・ペドロ・モヤ・デ・コントレーラス大司教にスペインで高位が与えられたことを祝って祝祭が催された。国王陛下が彼をインディアス会議の議長に任命なさったのだ。こうしてヌエバ・エスパーニャ及びここメシコ(の諸問題)は彼の手に委ねられた。

月曜日、1591年6月17日にトラスカラ人たち<sup>35</sup>がヌエボ・メシコに向けて出発した。チウクナウトランまで彼らを迎えに出て、食事会を開いてもてなし、励ました。全ての村の長たち、メシコ・トラテロルコのフランシスコ会士らが伴をし、彼らを祝福し、チウクナウトランで別れを告げた。副王もまた彼らを見送った。メシコの笛奏者と楽士が2人、彼らに同行した。1人はサンパブロ(区)のアグスティン・カノで、もう1人はサンフワン(区)のドミンゴ・サンチェスだ。

日曜日、7月7日にサントドミンゴ(教会)まで宗教行列が行われた。8つの教会の聖職者全員と聴訴官の方々が参加した。この行列は、国王のご子息[ドン・アントニオ]が無事カステージャへ到着なさることを祈って行われた。

日曜日、1591年7月XXI日にショロコ(地区)のサンアントニオ・アバー(教会)で初めてご聖体の宗教行列が行なわれた。礼拝堂付き司祭のホセ・メンデスと後援者バトロソのディエゴ・デ・ムニョンが行列を要請し、その嘆願書を学校理事兼大司教代理[サンチョ・サンチェス・デ・ムニョン]に提出した。

8月、トラスカラ人らをヌエボ・メシコへ送り届けに行っていたアグスティン・カノが戻った。コンポステラまで同行し、そこから戻ってきたが、チチメカ人を数名連れてきた。人集めのため、メシコに戻って来た。

[p.4] 我らの贖い主テマキシユティアニ、幼子イエス生誕の前日、火曜日、1591年12月24日に商人ポチテカ<sup>36</sup>の御輿が置かれていた祭壇衝立に1体の像が飾られた。聖サン・ディエゴディエゴ師<sup>37</sup>の像だ。聖サンクティエゴディエゴはトンスラがなく、髪を剃っていた[平修士]と言われ、門衛や料理係を務めた。命じられるまま、全ての仕事を従順にこなした。

IX - 石の年、1592。火曜日、1月21日にサンイポリト市場は解体され、メシコの4区とトラテロルコで準備が整えられた[(西訳)サンイポリト市場は均され、その四面が整備された。メシコとトラテロルコには…、]。水汲み場が設置されるとのことで、柳などの木々が植えられた。午後、サンラサロ市場で告知が読み上げられ、翌日からサンイポリト(市場)では商売をせず、そこ[サンラサロ]で市を開くというお達しだった。しかし市はほんの数日しか開かれず、再び跣足の神父たちが修道院を建てる場所[サンイポリト]で市場が開かれた。トラテロルコの人たちは市場がトラテロルコで開かれると思込んでいた。メシコの女性たちが高等行政司法院に文句を言いに行ったが、何にもならなかった。

日曜日、2月23日、大聖堂にメシコの様々な聖職者が集まった。聖サバナス骸布という我らの神の経帷子の布がローマから届いたと分かり、知らされた。

木曜日、3月5日に武器を製造している武器工場で火事があった。周辺から労働奉仕<sup>コアテキトル</sup><sup>38</sup>に来ていた人たちが多数火傷を負った。ただれた皮膚を見るのはつらかった。彼らは王立病院へ運ばれた。治った者もいるが、亡くなった人もいる。

月曜日、1592年2月3日にイエズス会のテアティノ会士らは王宮牢があった場所の向かいに居を定めた。聖ブラジルの祝日の夜にそこに入り、すぐさまご聖体を安置し、鐘を吊るした。そこに住む修道士らを誓願<sup>ロス・プロフェソス</sup>修道士と呼んだ〔(西訳)そこを誓願修道士の家と呼び、修道士が住むようになった〕。[p.5]それを知るとすぐにフランシスコ会士はドミニコ会士、アウグスティヌス会士、(在俗)司祭らと会合を開き、高等行政司法院に赴き、副王ドン・ルイス・デ・ベラスコ、異端審問官サントス・ガルシア、当時滞在中だった中国司教ドン・ドミンゴ・デ・サラサル師に異議を申し立てた。だが自分たちに何ができるのか、それを決めたのはここではなくスペインで、認可は向こうから来たのだと言われ、憤懣やるかたなしだった。その後、フランシスコ会士がスペインへ訴えに行ったが、どうにもならなかった。

今日、金曜日、2月XVII日にバッタ(の大群)がここを出てトラテロルコへ行った〔(英訳)トラテロルコからこちらの方へ来た〕。移動する先々で辺りが暗くなった。月曜日、1592年4月20日に再び来た。午前4時、動くとき鐘のような唸りが聞こえた。サンミゲル(教会)<sup>39</sup>へも、タクバーへも、アトラクイワヤン[タクバーヤ]へも、コヨアカンへも行った。

日曜日、4月26日に共同体の領主館<sup>テクバン</sup><sup>40</sup>にあったジャガー(の石像)2体がカスティージャへ運ばれた。またこの時、赤い太陽を描いた領主用の羽織<sup>ティルマ</sup>が織られた。もう1つトルコ石色の羽織も作られた。四隅がジャガーの皮製で斜めに線が入り〔(英訳)斜めにジャガーが描かれ、別のモチーフと重なり〕、端は緑石で飾られていた。履物も作られた。それらは王子と国王ドン・フェリペに献上されるという。刺繍師が縫い、市場の人らが端の飾り付けをした。〔[行間、右]その羽織には色の濃い羽根で作った太陽があったが、かつてメシコの領主たちが身に付けていたものだ。これらは全て送り届けられた。〕

5月25日、メシコ市に知らせが届いた。大司教ドン・ペドロ・モヤ・デ・コントレーラスがカスティージャで亡くなったという。ある手紙に2月に亡くなったと記されていた。5月29日、メシコ中の教会で追悼の鐘が鳴らされた。〔市内では18日間、鐘が鳴らされた。〕1592年6月15日、大聖堂で(追悼の)ミサがあげられた。仮祭壇<sup>モヌメント</sup>が設けられた。市内の8つの教会で聖職者たちが彼のために大ミサを唱えた。

火曜日、1592年6月末日、サンパブロ教会の[p.6]区画と鋤入れが行なわれた。それによりアウグスティヌス会の神父たちがその所有権を得た<sup>41</sup>。行政長のドン・アントニオ・バレリアーノ<sup>42</sup>、判事のフランシスコ・デ・ラ・クルス、エルナンド・ガルシア、ドン・フワン・マルティンやサンパブロ(区)の有力者や市会員はみな、修道士に(所有権)を与えるために石を取り、腕に抱えて運び、修道士はそれを並べ、モルタルで固めた。

1592年に1人4トミンの税が課された。さらに1人2トミンが国王に献上され、兵士たちへの支払いに使われる。これは世界の隅々の村という村に課された。その税が徴収され、献上されるとの告知が領主館であった〔(西訳)この税は恒久的に徴収されるとの知らせがあった〕。これはフラン

シスコ・デ・ラ・クルスが判事、{トマス・デ・アキーノが筆頭市会員、テキカルティトラン(地区)のパブロ・ヒメネスが代理官}の時だった。

水曜日、9月XVI日にいたるところで浸水があった。天井から雨漏りし、各地で家が崩れ、人が下敷きになった。

木曜日、10月XII日の夜、サンホセ(教会)の鐘が鑄造された。その鐘はあるスペイン人がヘロニモ・デ・サラテ師の指示に従って鑄造した。

X-の家年の年、1593年。日曜日、3月28日の早朝、人々がサンホセ教会に集まっていると、我らの神父フワン・デ・サンティアゴ師が出てきて、人々を追い払い、紐で叩き、境内から追い出そうとして棒でも叩いた。そのため後に、職を辞することになった。ペドロ・デ・レケーナ師が代わってその職に就いた。特使のベルナルディーノ(・デ・サンセブリアン)師が彼[レケーナ]をヘロニモ・デ・サラテ師とともにサンホセの礼拝堂つき司祭に任じた[(西訳)彼[サンティアゴ]をその職に就けたのはレケーナ師で、ベルナルディーノ師とサラテ師の指示によるものだった]。[特使は領主らの願い出があって初めて彼を辞任させた。領主らは嘆願書を出した。]

日曜日、4月11日にナザレ人の息子たちとして誓願していたスペイン人たちの礼拝堂がお披露目された。枝(の主日)に落成した。枝が祝別されて、教会から行列が出た。晩祷の時間に、フランシスコ会のレイノーソ師がスペイン人たちに説教をした。

日曜日、4月XXV日にテペトラツィンコ・ナティビタスの人たちの聖体顕示台が祝別された。また、[p.7]日陰を作る天蓋と香具入れ、金の香炉も祝別された。アウエウエトランの人たちもすぐに、たいへん美しい聖体顕示台を購入し、飾った。

火曜日、4月XXVII日に山地からの水が流れる川の底部を掘った。掘削するためメシコとトラテロルコに人々が集められ、チナンパ地帯<sup>43</sup>の人やテパネカ人<sup>44</sup>も川底を掘った。

日曜日、{聖霊降臨の日に}、1593年6月6日にサンホセ教会の正面上部に鷲(の像)が設置された。今も目にすることができる。その時、我らの神父ヘロニモ・デ・サラテ師の指示によって、教会正面の上に雲の模様の(?)胸壁が作られた。また、やはりその頃、(教会の)右側に屋根を懸けるため、柱も据え付けられた[(英訳)右側を覆う列柱が完成した]。

金曜日、6月4日2時頃雨が降り出した[(英訳)2時間降り続いた]。夜が明け総巡察の日になると、もう泥だらけだった。その後、増水し始め、ここメシコも、4区の畑も水を被った。各地で家が雨漏りし、被害が出た。その後どの畑でもトウモロコシが干からびた。

木曜日、6月XVII日はご聖体の行列の日だったが、(行列を)うまく外へ出せず、大聖堂の中でだけ行われた。雨が激しく、豪雨で泥だらけになったため、出られなかった。踊り手たちはメシコでもトラテロルコでも準備を整えていた。様々な職人たちが団体ごとに催し物を用意した。王立高等行政司法院と市会の普通判事らがそうするよう命令し、祝祭に参加しない者には司直が罰金を課すという罰則を筆頭コレヒドール<sup>45</sup>が出していたからだ。サンホセ(教会)の説教師ヘロニモ・デ・サラテ師もそれを守るよう命じた。筆頭コレヒドールは一番うまく祝祭をした人には賞金が出ると言った。

[p.8] 日曜日、6月20日、やっにご聖体の行列を出せた。それまで大聖堂の中でしかできなかつ



た。きちんと祭礼ができ、踊りが行われ、花で飾り付けられ、メシコやトラテロルコの人たちは誇らしげだった。多くの御輿や幟が行列に出た。（サンフランシスコ）教会の隣のサンホセ（教会）はふだん聖職者が人々を集める所だが、そこに聖フランシスコ（像）と聖ディエゴ（像）を設え、上質の布をまとわせた。だが、木材が折れて御輿が崩れ、聖人像が傷ついた。聖フランシスコ（像）は片手が壊れ、聖ディエゴ（像）も傷がついた。

日曜日、6月27日、ご聖体の宗教行列がサンフランシスコ（教会）で行なわれた。サンアグスティン（教会）、サントドミンゴ（教会）、トラテロルコでも行なわれた。サンフランシスコ（教会）では、様々な職人の集団がそれぞれ自分たちの木製の舞台を出し、商人、鍛冶職人、<sup>テオバントラカ</sup>教会の人たち、大工たちが踊り、祝祭を行なった。兵士（の姿をした人）たちはカスタニェーダ（の家）の前にある水路で戦い用のカヌーにのって模擬戦をした。前代未聞の大規模な祭りになった。異端審問官がミサをあげに来た。

今日、日曜日、1593年7月18日、サンタクララ会の修道女がサンフワン・デ・ラ・ペニテンシア（教会）に移った。来たのは5人だけで、午後の4時に着いた。フランシスコ会の聖職者が総出で彼女らを送ってきた。修道院長、顧問たち、特使、管区長がじきじきに彼女らの送り届けに馳せ参じた。筆頭コレヒドールをはじめ多くのスペイン人もお伴をした。馬車に乗ってサンタクララ（教会）を出た。

今日、金曜日、我らの神の<sup>トラスフィグレーション</sup>[p.9]ご変容の祝日、8月6日、ご聖体がサンフワン・バウティスタ・デ・ラ・ペニテンシア（教会）に安置され、我らの神の民は大いなる恩恵を賜り、（サンフワン・）モヨトランは栄誉と名声を授かった。当局、副王、聴訴官たちもご聖体の安置に駆けつけた。周辺<sup>スヘート</sup>の属邑から輿が持ちこまれ、聖職者は2列でやってきた。

今日、日曜日、9月5日、ボラドール広場<sup>46</sup>で踊りが行なわれた。副王の命令による。漁師の歌が歌われた。チナンパ地帯のショチミルコ、<sup>ナウテグティン</sup>四領主国<sup>47</sup>（の人たち）もみな、踊りで使う記章を持ってやってきた。メシコやトラテロルコの職人やタクーバの人も踊りに来た。それを見て君主たちも司教たちも感心しきりだった。

今日、日曜日、1593年10月3日、霊的指導者の異端審問官ドン・サントス・ガルシアが（ハリスコ）司教として霊的統治すべく叙任された。サンフランシスコ（教会）のサンホセ（教会）において、巡察官でプエブラ司教のドン・ディエゴ・ロマーノによって叙階された。サンホセ（教会）の柱廊に沿って木製観覧席が設けられた。その正面に各修道院の聖職者がみな陣取った。副王閣下、聴訴官、市の普通判事をはじめ、特使や管区長も列席した。翌日〔の月曜日〕、10月4日、聖フランシスコの祝日、絵師が作った鷲の像が公開された。ノパルサボテン〔に鷲が止まり、その上に我らの神父、聖フランシスコが馬乗りで跨った〕像<sup>48</sup>だ。その像は境内の十字架の足元に設置された。説教師のヘロニモ・デ・サラテ師は説教で、鷲の背に跨った聖フランシスコについて話をした。

今日、火曜日、1593年10月5日、私ドミンゴ・デ・サンアントン・ムニョン・チマルパイン<sup>49</sup>はお仕えすべく、ここショロコの我が敬愛するサンアントニオ・アバー神父様の教会に入った。ツァクワルティトラン・テナンコ・アマケメカン〔アメカメカ〕・チャルコ出身だ。

[p.10] XI - 兎の年、1594年。1月3日、月曜日、タクーバ領主ドン・フワン・コルテスが亡く

なった。彼は領主ドン・アントニオ・コルテス・トトキワストリの息子で、日曜日の夜に逝った。月曜日の夜明けにはもう(棺桶に)横たわり、その後、埋葬された。タクーバの町を9年間、治めてきた。(その後)4か月間領主がおらず、トラスカラからドン・レオナルド・シコテンカトルが<sup>フエス</sup>法官<sup>50</sup>として着任した。副王が彼をタクーバの町の領主に任命した。

1594年4月、我らの神の復活祭が過ぎ、白い僧服の修道士、捕囚救済と恩寵の愛しき聖母マリアの息子たち、つまりメルセス会士が引っ越した。トマトラン地区のスペイン人織物業者ルカス・デ・ドゥエーニャスの向かいに移り住んだ。テオカルティトラン地区のサンイポリト(教会)には3年と3か月いた。

木曜日、2月24日、使徒聖マタイの祝日、四旬節の齋日の2日目、{大規模な}行列が行なわれた。サンヘロニモ(教会)を出発し、行列はテキスキパン(地区)のモンセラット(教会)に着き、両腕に愛息を抱いた天の貴婦人、モンセラットの聖母(像)を設えた。通り道は立派に飾り付けられ、木の観覧席が設置された。葦のアーチや旗が通りに設けられた。副王や聴訴官が参加し、神の母である聖母(像)を安置する行列が行なわれた。

この年、ドミニコ会士だった聖トマス・アクィナスの祝日を祝うようになった。周知すべく、全ての通りでお触れが出された。それまでこの聖人の祝日を毎年は祝っていなかったが、[p.11] 今後は毎年盛大に祝祭を行なうことになったからだ。これはローマにおられる教皇のご命令による。{この年、1594年3月VII日の聖人の祝日は月曜日にあたった。}

今日、金曜日、1594年3月XI日、助祭長のドン・フワン・デ・セルバンテスがボニージャ大司教<sup>イシュビトラ</sup><sup>51</sup>の代行となり、その職に就いた。就任式はボニージャ大司教の命により大聖堂で行なわれた。彼[ボニージャ]は大司教に叙任されるためカスティージャへ行っていたが、巡察官としてペルーに赴任した。彼はそこから委任状を送り、自分のペルー巡察中は、メシコ市の助祭長<sup>ゴベルナドール</sup>を代行とした。大聖堂は飾りつけられ、夜を徹して盛大な祝祭が催され、彼は件の職に就いた。教会の上では篝火が焚かれ、スペイン人、<sup>カピトル</sup>聖堂参事会、<sup>デ</sup>参事会長、<sup>アルセディアノ</sup>助祭長、<sup>プロビソール</sup>総代理、<sup>カノニゴス</sup>参事会員や在俗司祭が祝祭に参加した。

今日、土曜日、3月XIX日の聖ヨセフの祝日に、赤いダマスク織の旗がお披露目された。その縁に火{と水}の徴があり、歴代のメシコ領主が{ノパルサボテンの葉に}描かれていた<sup>52</sup>。また領主を象徴する鷲に我らの敬愛する聖フランシスコが馬乗りになり、手には十字架と紙片を持っていた。{それはサンホセ教会の正面に掲げられ、副王や聴訴官たちが鑑賞した。}

今日、日曜日、1594年3月XX日、テアティノ会修道院の隣りに新しい女子修道院ができた。エンカルナシオンの聖母という修道院で、コンセプション(教会)を出た[p.12]修道女が移った。我らの敬愛するコンセプション(の聖母)の修道女だ。

今日、木曜日、1594年3月XXIII日、現副王の父君、老ドン・ルイス・デ・ベラスコ副王の追悼をした。亡くなったのは今から30年と3か月前の1564年だった。彼を偲んで仮祭壇がサントドミンゴ(教会)に設置され、そこで追悼ミサが行なわれた。全ての聖職者が参集し、亡き副王のために{祈祷}ミサが行なわれた。教会の境内では宗教行列が行なわれた。聴訴官たちが(副王の)遺骨の入った壺を肩に担いだ。{ミサが終わると、別の場所に遺骨を埋葬し、聖職者全員に食事がふ

るまわれた。}

金曜日、1594年3月XXV日の聖母マリアの受胎告知の祝日、サンタクララ(教会)の修道女がサンフワン・バウティスタ・デ・ラ・ペニテンシア(教会)に到着した。さらに8人が来て、最初の4人と合わせて12人になった。馬車に乗せられ、その横を親戚縁者が伴走した。世俗(市会)の判事ゴンサロ・ゴメス・デ・セルバンテス、警吏長バルタサル・メヒアなどスペイン人のお歴々がお伴した。{聖職者たちはサンフワン(教会)で彼女たちを待ち受けた。}メシコの領主、判事、市会員たちも先住民も男女こぞってサンタクララ(教会)まで見に出かけた。彼女らがサンフワン(教会)の近くまで着くと、敬意を表し花や花びらで迎えた。聴訴官や副王も駆けつけ、{ミサの間}説教が行なわれた。

我らの神の復活祭は1594年4月X日に当たった。数日後、霊的指導者の司教ドン・フランシスコ・サントス・ガルシアが出発した。任地のトナラン[グアダラハラ]へ向かった。[p.13]聖務を果たすべくグアダラハラへ行った。トラテロルコを通った際、堅信礼をとり行なった。彼に代わってドン・バルトロメ・ロボ・ゲラ<sup>53</sup>が異端審問官になった。

メルセス会の神父たちがトマトラン地区の織物業者ルイス・デ・ドゥエーニャスの向かいに移り住んだ。復活祭が終わった1594年4月だった。3年と4カ月サンイポリト・テオカルティトラン地区にいた。{彼らは居場所を転々としたが、どこも気にいらなかった。}トマトランには11カ月ただけで、1595年2月にはトサニトラン(地区)へ移り、ディエゴ・メヒア・セルダの家の隣りに住み、{ようやくお気に入りの<sup>ポルンター</sup>支援者の家に落ち着いた。}

今日、土曜日、1594年7月XXIII日、厳しい苦行をする跣足(フランシスコ)会の神父たちが、サンイポリト(教会)の前、ウエウエカルコ地区辺りに建設していた新しい修道院に引っ越した。13年と7カ月いたサンコスメ・イ・サンダミアン菜園からウエウエカルコ(地区)の新しいサンディエゴ教会に移った。

今日、使徒聖ヤコブの祝日、1594年7月XXV日は昔の暦ではXI - 兎の年に当たるが、大変な災難が降りかかった。日照り続きでトウモロコシが大きな害を受け、しなびて、一部は霜枯れした。雨はほとんど降らず、降ってもほんの数カ所で少しだけだった。メシコでもどこでも大飢饉が起こった。トウモロコシが高騰し、1トミンでも小籠1杯分のトルティージャしか手に入らなかった。1トミンはカカオ豆<sup>54</sup> 1個の価値になった。灰色の魚はたくさん捕れ、<sup>ヒカラ</sup>籠一杯で半トミンだったが、トウモロコシは1トミンで背負い籠半分にもならず、食用小虫<sup>55</sup>も混じっていた。

聖バルトロマイの祝日、94年8月24日、タクバーヤの人たちが[p.14]副王ドン・ルイス・デ・ベラスコから直接手に入れた<sup>マンダミエント</sup>副王令を誇らしげに見せた。彼らにメシコでの白プルケ酒の商い、販売を認め、没収や逮捕を禁じていた。彼らはこの副王令を行政長のドン・アントニオ・バレリアーノと判事らに指し示した。

今日、土曜日、1594年8月XXVII日、ドミニコ会士がアウエウエトランの<sup>ビシタシオン</sup>ご訪問(教会)に入った。彼らは教皇と国王の命令でそこに住むことになった。許可書はここで出されたのではなく、カスティージャから来た。そこでミサをあげていたフランシスコ会士はその教会を手放した。その後、ドミニコ会士はその教会に<sup>ラ・ビエグー</sup>憐れみという名を付け、今もそう呼ばれている。これは副王

ドン・ルイス・デ・ベラスコの時の出来事だ。

メシコ市で、1594年9月XI日、尊き高位聖職者で名高い賢人、メシコの学校理事ドン・サンチョ・サンチェス・デ・ムニョンが、テペトラツィンコ・ナティビタス地区に留まることを受諾した。前日、学校理事はその教会を下見に行き、聖母の祝祭が行なわれた9月11日の日曜日にテペトラツィンコでミサをあげてから戻った。その時ヘロニモ・デ・サラテ師が説教をし、彼が学校理事に(留まるよう)頼んだ。1594年のことだ。

XII - 葦、1595年。土曜日、1月XXVIII日、ショチミルコで(フランシスコ会の)総会が開かれ、修道士たちが集まった。新任の特使ペドロ・デ・ピラ師が召集した。2カ月余り前に特使の職を拝命したところだった。エステバン・デ・アルスア師が管区長になった。またこの時、この修道士たちがサンマティアス・イスタカルコに入った。まずフランシスコ・レイノーソ師がそこに住んだ。土地を確保するべくそこに彼が住みついた。ペドロ・デ・レケーナ師はクワウティトランへ行った。彼はサンホセ(教会)の礼拝堂付き司祭だった。ヘロニモ・デ・サラテ師はチョロラン[チョルーラ]へ行った。サンホセ(教会)にはフランシスコ・デ・ガンボア師とガスパール・オルティス・デ・アリ[…破損…]師が来た。

[p.15] 水曜日、1595年6月VII日、サンイポリト市場で、メシコで我々が税として納める七面鳥<sup>トトリン</sup>についてお触れが出された。税額<sup>ガジーナ</sup>は鶏7,400羽余りと査定された。その(相当)額が等分され、平均して(納税者)1人につき4トミンと2トミンになった[(英訳)鳥に代わって払う金額は1人当たり4レアル、プラス2レアルと各1レアル半になる]。この税は副王の命令により、全ての村に課された。納税場所としてサンイポリト(教会)、身寄りなき人々<sup>ロス・デサンバラードス</sup>(病院)、王立病院、ウィツィラン(地区)、<sup>コンタドゥリア</sup>会計院、<sup>ブバス</sup>横根病院<sup>56</sup>の6カ所が指定された。

今日、日曜日、1595年7月IX日、モンセラットの聖母(像)[(英訳)教会]はテキスキパン地区にあった[(英訳)ある]が、サンパブロ(教会)へ通じる街道に面したご自分の教会に移り、今もそこにある<sup>57</sup>。

月曜日、10月XXIII日、サンホセ(教会)の鐘楼に吊るされる鐘が運び上げられた。修道士のガンボア師とガスパール師が祝別し、午後に運び上げられた。

今日、火曜日、1595年10月XXIII日、副王ドン・ルイス・デ・ベラスコが出立した。3時にメシコ市を発ち、ペルーへ向かった。ここでは5年と10カ月、統治した。彼の時代にサンフランシスコ教会(の再建)が始まり、彼が去った時には工事もずいぶん進んでいた。後陣の礼拝堂の完成を残すのみだった。

今日、木曜日、1595年11月2日の諸聖人の日、副王モンテレイ伯ドン・ガスパール・デ・スニガ・イ・アセバードがテペヤカクに到着した。スペイン人たちはそこで祝宴を催し、メシコやチナンパ地帯の人たちは踊りを披露しに行った。日曜日、[p.16]1595年11月V日に{新任の副王ドン・ガスパール・デ・スニガがメシコ・テノチティトラン市に入城した。着いたのは午後で、高等行政司法院に入った時には暗くなり始めていた。祈りを捧げる時間だった。}[[右]今日、木曜日、1595年11月30日の使徒聖アンデレの祝日の午後、アグスティン・デル・エスピリトゥ・サント師が聖アントニオス会<sup>58</sup>の僧服に袖を通した。メシコ大司教区の聖堂参事会員で司教総代

理のエルナンド・オルティス・デ・イノホーサ博士が僧服を着せた。}

1595年12月、死に至る疫病、<sup>サランピオン</sup>麻疹が流行し始め、すぐに猖獗を極めた。白いプルケ酒で治った。エロキルティクやトレトレマイトル<sup>59</sup>を白プルケ酒と一緒に飲むと治った。数多くの死者が出、毎日、多くの人々が埋葬された。1596年に入っても疫病は収まらず、下火になる気配もなかった。老若男女が死んだ。{メシコのどの家でも修道士は人々の告解を聞いた。スペイン人たちは食べ物に分け与え、瀉血をした。}

日曜日、1595年12月最後の日、宗教行列が行なわれた。サンセバスティアン(教会)を出て、サンラサロ・アカルカルティトラン(地区)まで行った。たいへん美しい行列で、先住民もスペイン人も参加した。我らの神父カルメル会のエリアス・デ・サンフワン・バウティスタ師が説教をした。これは疫病退散を祈願しての行列で、我らの神と聖母マリアが気を鎮めて下さるよう願ってのものだった。

XIII - 石の年、1596年。月曜日、4月2日、サンホセ(教会)の鐘楼が完成した。屋根の上に鉄製の十字架が設置され、緑色<sup>60</sup>に塗られた。今もその姿だ。サンホセ(教会)の修道院長フランシスコ・デ・ガンボア師がそうした。

この年の2月、3月、4月の間、兵士たちは中国へ、カリフォルニア、古きヌエボ・メシコ<sup>61</sup>、サンフワン・デ・ウルアの先のハバナとフロリダの5カ所に向け出発した。スペイン人たちはこれら5カ所に武装して出かけた。

ヌエバ・エスパーニャのメシコ・テノチティトラン市で、[p.17]今日、聖水曜日、1596年4月10日、数あるメシコの修道院の中でも最初のサンフランシスコ(教会)のサンホセ礼拝堂で、聖なる信徒会が創設され、聖ディエゴ師の息子たちによる新たな宗教行列が行われた。教皇が(許可証を)出し、ローマから届いた。聖水曜日、皆は(行列を組み)3時に出発した[(英訳)3時間、巡行した]。輿を担ぐ人たちがサンホセ(教会)に集まった。そこには(イエスが)父なる神に祈り、尊き聖母マリアに別れを告げる<sup>デスベディメント</sup>惜別の場面が花で飾られていた。皆は灰色の旗を(持ち)、胸には灰色の<sup>エスカプラリオ</sup>肩衣を懸けていた。

今日、96年5月XIII日、秘書官サンチョ・ロペスが亡くなり、サンフランシスコ(教会)に埋葬された。

月曜日、1596年5月XX日、我らの神の昇天を祝し、宗教行列が行なわれた。しかし、サンフランシスコ(教会)までは来ず、{トリニダー(教会)と}サンアグスティン(教会)にしか行かなかった。翌日の火曜日には、王宮牢の前にあるテアティノ会<sup>カサ・プロフェサ</sup>の誓願の家(教会)にだけ行った。このため聖職者の間で、つまり在俗司祭とドミニコ会士、フランシスコ会士で言い争いになり、ついには破門騒ぎに発展した。これ[破門]をしたのは当時、大司教の代行を務めていたドン・フワン・デ・セルバンテスだった。

同じ月曜日、96年5月XX日、ハリスコ司教ドン・フランシスコ・サントス・ガルシアが来た。夕暮れ時にメシコに着いた。彼は木曜日、96年6月XXVII日に亡くなった。ハリスコを2年と4カ月、治めた。遺体は大聖堂の聖なる磔刑像がある所に埋葬された。

[p.18] 今日、土曜日、1596年7月XX日、ご聖体が宗教行列でレジナ・チェリ(教会)に運ばれ

た。これにより修道女たちの新しい教会が祝別された。ご聖体は10日間、公開され、その間、毎日ミサがあげられた。教会の建設には13年を要した。{[右上：全文スペイン語]聖なる隠修士グレゴリオ・ロペスが土曜日の正午に亡くなった。今年1596年の7月20日のことで、カルメル会の神父が聖エリアスの祝日を祝う日だった。彼[聖エリアス]は隠遁生活を始めた最初の神父で、グレゴリオ・ロペスは見事にその隠遁生活に倣った。54歳だったが、そのうち33年間は隠遁生活だった。遺体はサンタフェ教会の主祭壇の近く、福音書の側<sup>62</sup>に埋葬された。}

日曜日、96年9月XXIX日、大聖堂およびその他の(修道士や)修道女の教会で宗教行列が行なわれた。海上で犠牲になったキリスト教徒[スペイン人]のために祈りが捧げられた。殺したのはルター派やイギリス人で、犠牲者のために至るところで祈りが捧げられた。{やはりこの時、教会の屋根が葺かれ、サンパブロ教会が落成した。}

<sup>アウト・グランデ・デ・メシコ</sup>  
メシコの大公開判決<sup>63</sup>

今日、日曜日、1596年12月8日、聖母のお宿りの祝日、偶像崇拜のユダヤ教徒5人とスペイン人女性4人の計9人が火焙りの刑になった。人形が焼かれたのはスペイン人男性19人、女性1人〔(英訳)人形10人分、9人はスペイン人男性、10人目は女性〕で、その骨が木箱に入れられていた〔(英訳)11人目の骨が木の籠に入れられていた〕。計20人分になる。全て合わせて69人が晒し者にされた。{[段落末]人形で燃やされたのはスペイン人男性19人、女性1人で、その骨が木の箱に入れられた。計20人分になる。}

判決を下し、裁きを行なったのは2人の異端審問官で、主席異端審問官のドン・バルトロメ・ロボ・ゲレーロ博士と次席異端審問官のドン・アロンソ・デ・ペラルタだった。(被告たちは)世俗(市会)の建物に顔を向けて並べられた。そこには木製の大観覧席が設えられ、副王と聴訴官が座り、中国大司教ドン・イグナシオ・デ・ミジャス師が説教した。午後になりサンイポリト(教会)で偶像崇拝者たちが焼かれた。(公開判決を)一目見ようと、各地の村から領主や有力者、アルカルデ・マヨール、コレヒドールやその代理<sup>デニエンテ</sup>など色々なスペイン人が集まった。また修道士たちも各地から来た。(被告を)執行の場に連れ出すと、[p.19]メシコに8つある修道院の修道士がみな彼らを取り巻き、信仰を思い起こさせ、告白に耳を傾けた。{これはドン・フワン・デ・セルバンテスが大司教の代行、オルティス博士が総代理を務めていた時の出来事だった。}{[右]晒し者になったのは計69人で、処刑は世俗(市会)の前で行われ、午後、サンイポリト(教会)で焼かれた。}

火曜日、1596年12月XXIII日、ドン・フワン・マルティンが代理に指名された。彼は{行政長}ドン・アントニオ・バレリアーノを補佐する。かなり高齢で耳が遠かったため彼がメシコの行政を助けることになった。これは副王の命令で行なわれた。彼[副王]が領主館の総巡察に来て、<sup>バーラ</sup>錫杖をドン・フワン・マルティンに授け、告知した。彼は法官としてアコルマンを2年5カ月、治めていた。

I - 家の年、1597年。聖セバスティアヌスの祝日の月曜日、1597年1月XX日、我らの敬愛する神父、サンフランシスコ修道院長アロンソ・ウルバーノ師が病人たちのために40ペソを寄付した。そのお金でトウモロコシ、トルティージャ、菓子パン、<sup>マルケソテ</sup>果実、果物などを購入し、サンフワン(区)やサンタマリア(区)の地区の病人に配布された。市会員と何人かの医者が病人の世話をし、

必要な治療薬を手配するため、指名された。疫病の勢いは収まらず、多くの人々が亡くなったからだ。子供たちが死んだ。歩き始めた子供も、まだ這い這いの子も、男の子も、女の子も。成熟した人たちも、人生を謳歌していた男女も、老人も、老女も。大勢の人が亡くなり、スペイン人も死んだ。

今日、木曜日、1597年3月13日、サンイポリト(教会)でお触れが出された。(我々先住民に)牛、ラバ、馬、羊、鶏、七面鳥の飼育を勧める一方、ケープや(スペイン風)衣服の着用や刀剣類の所持帯刀は規制され、その使用には許可証が必要となる。身の丈に合わせて暮し、怠けず、人目を欺いてはならず[(英訳)誰も好き勝手な格好をしてはならず]、聖週間と復活祭の間は労働奉仕をせず、[p.20]労働奉仕は復活祭が過ぎてからすべしということだ。

今日、日曜日、1597年3月[4月]XX日、贖い主キリストご復活から15日後、聖ヒアチント<sup>64</sup>像を称えて祝祭が行なわれ、その(像の)行列が初めて行なわれた。像は大聖堂から引き出され、サントドミンゴ(教会)まで運ばれた。この大聖人はドミニコ会士だったからだ。我らの神は奇跡を行なう力を彼に授けた。聖ディエゴのような人だった。

木曜日、1597年8月XIII日、トトルテペックの救済の聖母マリア(像)<sup>65</sup>が(メシコに)来た。皆こぞって出かけた。先住民の男女も、スペイン人も夫人を連れ、みな灯りに蠟燭を持って行った。トトルテペックまで行った者もおれば、途中まで迎えに出た者もいた。像は大聖堂に安置され、メシコに10日間、留まった。

今日、金曜日、1597年10月10日、(フランシスコ会の)修道士らがサンタマリア・アスンシオン・ラ・レドンダ(教会)に入った。彼らはローマ教皇と国王の命令でそこに入り、留まることになった。日曜日、10月19日、サンホセ(教会)にあった聖母マリア像が宗教行列で運ばれた。当時の管区長はフワン・ラスカーノ師で、ディエゴ・レンドン師が最初の修道院長になり数名の修道士と一緒に住んだ。これは有力者ドン・ミゲル・ガルシア・イシュトラウエルとディエゴ・サンチェス、判事アンドレス・ガルシア・[p.21]コワクエチ、市会員ニコラス・エルナンデス、マティアス・エルナンデスの時の出来事だ。

日曜日、1597年12月VII日、待降節の第2日曜日の説教でフワン・デ・カスティージョ師が、中国で修道士が亡くなったと報告した。6人の跣足フランシスコ会の修道士だ。彼らは日本という国で、十字架に両腕を広げ、手を釘で打ちつけられ殉教した。日本人のキリスト教徒もいた<sup>66</sup>。みな一緒に殺された。日本の大君主の命令で行なわれた。

2 - 兎の年、1598年。水曜日、2月4日、灰が取られた。2日後の金曜日、2月VI日、サンタマリア・ラ・レドンダ(教会)でまず金曜日の宗教行列が行われた。これはロペ・イスキエルド師と修道院長のディエゴ・レンドン師の発案だった。1週間後の金曜日、同じ年の1598年2月XIII日にサンフランシスコ(教会)の境内で行列が行なわれた。ガンボア師とフワン(・デ・カスティージョ)師は、サンタマリア(教会)が先に行列を出したため、かなりご立腹だった。だが毎年、四旬節の金曜日ごとに行列を行なうことになった。

水曜日、1598年3月4日、総代理のオルティス・デ・イノホーサ博士が亡くなった。存命なら、グアテマラ司教になるはずだった。総代理職を長年勤めてきた。

聖金曜日、1598年3月XX日、サンパブロ(区)の住民が我らの神と悲哀の聖母ソレダーがご一緒の像をお披露目した。最初、{[下～次ページ上、右]彼らの行列は午後3時に出発した。メシコのアロンソ・フェルナンデス・デ・ボニージャ大司教の代行でメシコ助祭長ドン・フワン・デ・セルバンテス博士先生の許可を得ていた。この行列には[p.22]モンテレイ伯ドン・ガスパール・デ・スニガ・イ・アセバード副王の許可も必要だった。サンパブロ(区)の住民エルナンド・デ・サンマルティンなどの求めで、彼らは当時伯爵が滞在中のショチミルコに出向いて許可を得た。このためサンフワン・モヨトランの人たちはサンパブロ(区)とサンセバスティアン(区)の住民に反対コントラディシオンの声を上げた。だが、サンセバスティアン(区)の人たちが毎年行列をすることが認可された。彼らが最初に出たからだ。}{[左]フランシスコ・デ・ガンボア師がサンフランシスコ(教会)のサンホセ礼拝堂付き司祭の時のことだ。}

1598年6月の末、アロンソ・ウルバーノ師が(サンフランシスコ)修道院長の職を辞し、フワン・デ・サラス師が後を継ぎ、アロンソ・ウルバーノ師はサンコスメ菜園へ行った。

98年7月、ヌエボ・メシコから1通の手紙が届き、アロンソ・マルティネス師を特使とするフランシスコ会士たちが向こうに着いたことが分かった。アメカメカ出身の献身者ドナードフランシスコ・ファウステイーノ・ケツアルマサツィンを連れていった。無事に到着したとの知らせが届くと、メシコは歓喜に沸き、大聖堂で行列が行なわれた。

土曜日、1598年10月X日、市場にお触れが出された。天使を象った土製の蠟燭台や聖人や聖女を蠟付けし、タバコを供える香炉は全て禁止された。異端審問所サンクト・オフィシオの異端審問官の命令により、(違反者は)破門に処され、製陶職人は製造を禁じられた。

今日、日曜日、1598年12月VI日の午後、中国の地、日本で亡くなった跣足(フランシスコ会)の神父たちの遺骨が届いた。修道士らは午後に着き、箱に入った遺骨を担いで運んできた。メシコにいた修道士たちがみな出迎えに行った。サンディエゴ(教会)に着くと鉄砲トレキキストリが鳴らされ、サンホセ礼拝堂では4枚の絵布が掲げられた。殉教の様子や経緯を描いた絵をスペイン人も先住民もみな見に行った。サンホセ(教会)の壁に絵布を飾ったのは、[p.23]メシコで司牧していたガンボア(師)とフワン師の指示による。これはフワン・デ・サラス師が院長、フワン・デ・ラスカーノ師が管区長、ペドロ・デ・ピラ師コミサリオ・ヘネラルが総長特使で、世話役フィスカルをフランシスコ・サンドーバルシンディコ、管財人と行政長をドン・アントニオ・バレリアーノとドン・フワン・マルティン、判事をドン・アントニオ・デ・メンドサとガブリエル・フワレスが務めている時の事で、アントニオ・ヒメネスはもう亡くなっていた。

III - 葦の年、1599年。今日2月10日、我らの領主で国王、世界の領主フェリペ2世陛下が逝去されたという知らせがカステージャから届いた。メシコで分かった時には、亡くなってからすでに4カ月が経っていた。あちらスペインで亡くなったのは1598年10月XVIII日のことだった。余命僅かと悟り、やはりドン・フェリペという名のご嫡子に王国と王冠を渡され、その世界王国セマナワク・アルテペトルを統べるべく指名、任命なされた。国王として43年間[…空白…]治められ、その世界王国を統治なされた。知らせが届くとすぐ、死を悼んで街中の鐘が鳴らされた。スペイン人全員に、断食し喪に服すよう命令が下された。



日曜日、1599年3月XIII日、四旬節の第3週、若きドン・フェリペ3世がスペインおよびヌエバ・エスパーニャ国王として即位なさり、我々は(十字架に)口づけして(忠誠の)誓いを立てることになっていた。しかし、それは延期され、金曜日の1599年3月XIX日、聖ヨセフの祝日に行なわれた。

日曜日、1599年3月XXVIII日、大君主、老フェリペ王のために晩課と徹夜の祈りが唱えられた。大聖堂には仮祭壇が設けられた。[p.24]そこで聖職者どうし、在俗司祭、ドミニコ会士、フランシスコ会士が口論になった。ドミニコ会とフランシスコ会は宮殿を退出する順序は恒例通りだと思っていた。修道士や司祭が大勢いる時は、ドミニコ会士とフランシスコ会士が先頭で、2つの(在俗)教区、ベラクルスと殉教者サンタカタリーナ<sup>67</sup>は殿<sup>しんがり</sup>だった。ドミニコ会とフランシスコ会の修道士は先頭だったが、口論になったのはこの2つの会が一緒くたにされたからだった。メシコの他の修道会はこの口論には加わらず、整然と静かに宮殿を出た。跣足フランシスコ会の神父が先頭を進み、大聖堂に入った。前述したように、これは日曜日の午後、宮殿を出る時のことだ。翌月曜日、告別式とミサが行なわれた。国王に祈りを捧げるため、各地の修道士が参集した。

枝の日曜日、1599年4月4日、サンアグスティン(教会)の祭壇衝立がお披露目された。今も見られる大変美しい像で飾られ、聖人像や柱や円柱が煌びやかだった。

今日、木曜日、1599年9月IX日、シャルトカン出身でトラテロルコを治めていたドン・ヘロニモ・ロペスがメシコの行政長 - 法官として着任した。当地を治めていたドン・フワン・マルティンは入れ替わりで、行政長 - 法官としてトラテロルコに赴任した。

注

- <sup>1</sup> 植民地時代のメキシコを指す。広義ではパナマ以北、カリブ海、フィリピンを含む副王領、狭義ではグアテマラより北のメキシコ高等行政司法院の管轄区を指す。
- <sup>2</sup> “tlahuahuanaliztli” はアステカ暦で2番目の月「人の皮剥ぎ」(3月6日～3月25日)に行なわれた剣闘士風の生贄儀式。身体の一部を縄で大きな石に結びつけられ、劣悪な武器を持たされた捕虜と完全武装したアステカ戦士が戦った。ここでは模擬戦闘のような演劇的見世物か。「君主たちtlahtoque」は副王ら植民地当局か、先住民当局を指すと思われるが、どちらか(また双方か)は不明。
- <sup>3</sup> 跣足は裸足の意。15世紀末から改革を繰り返したフランシスコ会にできた会派の1つ(ディエゴ会とも)。アジアへ布教に行く予定を変更し、メキシコに留まる者も少なくなかった。
- <sup>4</sup> チマルパインの「中国」は東アジア一帯を指し、日本やフィリピンを含む。
- <sup>5</sup> スペイン出身のカルメル会改革者(1515～82)。1622年、列聖。
- <sup>6</sup> イエズス会とテアティノ会は別物だが、設立時期が近いいためか当時はよく混同された。チマルパイン自身は1612年2月にその違いを説明しているが、『日記』各所でこの2つの会は併記されている。なお、最初のイエズス会教会は後のサンペドロ&サンパブロ学院などがあった所。
- <sup>7</sup> トリエント公会議で聖遺物信仰が認められ、メキシコでもこの頃から聖遺物の輸入が始まった。
- <sup>8</sup> フランシスコ会士。幼い頃に来墨し、ナワトル語を身に付け、同会で通訳を務め、修士にナワトル語を教えた。ナワトル語とスペイン語で辞書、文法書、教義本などを多数執筆。
- <sup>9</sup> フランシスコ会系の女子修道院。1569年、在俗司祭の指導下で市内東部のトリニダー礼拝堂を拠点に設立。74年8月、サンフワン教会に移り、フランシスコ会が指導。79年、コヨアカンに移り、82年に再び市内に戻った(Ramírez Méndez)。西訳ではペトラカルコをテペトラカルコとしているが、どちらもメキシコ市の地区名としては未確認。ペトラカルコという水路がタクーバ堤道近くにあった。
- <sup>10</sup> エンコミエンダは本来、征服の功労者に報酬として与えられた先住民村の管理権だが、英訳によると、ここでは宗教騎士団の「受勲騎士」comendadorを指す。
- <sup>11</sup> メキシコ市から西のタクーバに向かう堤道沿いに、1520年代からスペイン人が菜園や果樹園を作った。初代司教スマラガはそこにサンコスメ&サンダミアン病院と礼拝堂(おそらく菜園付き)を開いたが、16世紀半ばには放棄された。1581年、その跡地が跣足フランシスコ会に与えられ、同会が94年にサンディエゴ修道院に移った後は跣足でないフランシスコ会が引き継いだ。
- <sup>12</sup> メキシコ市の周りは塩水湖で、先スペイン期から、飲料水は西のチャプルテペクから水道橋で引いていた。植民地時代にはスペイン人が水道を管理し、先住民は十分な供給を得られなかったが、先住民行政長A・バレリアーノ(注44)らが粘り強く交渉し、新たな水道を引いた(Mundy, pp.196 - 199)。
- <sup>13</sup> 先スペイン期のテノチティランを縦横に走っていた水路は、植民地時代に多くが埋め立てられたが、7本ほど残り、重要な交通路として機能した。しかし、乾季には水量が減り、ゴミや廃棄物が捨てられ、手入れをせず放置していると航行不能に陥った。
- <sup>14</sup> 現モレロス州の村。1543年、同村のアウグスティヌス会が手に入れた磔刑像が奇跡を起こすと評判になった。83年、この像はメキシコ市の同会修道院に移送された(Otalora Montage)。
- <sup>15</sup> チマルパインは「我らの主である神」totecuiyo Diosを常に“to Dios”と略記している。訳では「我らの神」とした。
- <sup>16</sup> 初代のメキシコ異端審問官。1571年に着任後、74年10月から大司教。副王コルーニャ伯の没後、高等行政司法院が統治したが、モヤは83年5月から巡察官、84年から1年余り副王も兼務(Poole)。副王兼任の時期について、挿入や抹消など、チマルパインの記述に混乱が見られる。
- <sup>17</sup> “mexica”は他では「メシコの人たち」と訳したが、ここは1325年にテノチティランを建設した歴史的な集団を指すので「メシーカ人」(いわゆるアステカ人)とした。
- <sup>18</sup> 聴訴官が多忙になり、1568年、3人の刑事裁判官(alcalde de crimenとも)が任命された。
- <sup>19</sup> 植民地では在俗司祭がスペイン人信者に司牧し、先住民の改宗事業は托鉢修道会が一手に引き受けた。改宗がある程度進んだ16世紀後半、司教は在俗司祭に先住民信者を管理させ、十分の一税を徴収しようとしたが、修道会は先住民教区の在俗化に抵抗した。注(21)、(27)、(41)を参照のこと。
- <sup>20</sup> メキシコでは1555年、65年にも地方公会議が開かれ、布教方針などを話し合った。85年の第3回会議ではトリエント決議の受け入れが表明された。チアパ、ベラパス、マニラの司教は不参加。

- <sup>21</sup> フランシスコ会に代わってカルメル会がサンセバスティアン教会を管理することになったが、1608年2月には放棄し、その後をアウグスティヌス会が引き継いだ。
- <sup>22</sup> 参事会長、助祭長、指揮者、学校理事、財務官の幹部と参事会員などから成り、司教を補佐し、大聖堂を運営する機関。構成員は植民地生まれのクリオージョが多く、本国人の司教と対立、衝突することも多かったが、外部に対しては共同戦線を張った。
- <sup>23</sup> 「総代理」 vicario general y provisorは(大)司教を長とする教会裁判所（異端審問所とは別）の判事で、司教不在時の代理も務めた。チマルパインはこの同義語としてナワトル語の“ixptla”「代表、依り代」やスペイン語の“gobernador”「統治者」も使っており、その場合、「代行」と訳した。
- <sup>24</sup> 「特使」 comisarioは教皇ではなく、フランシスコ会総長がメキシコとペルーに1名ずつ任命し、北米と南米の全管区を監督させた。この時の特使アロンソ・ポンセ師は急激な管区改革を試み、管区長以下と対立し、一時サンコスメの跣足フランシスコ会に匿われた。
- <sup>25</sup> 16世紀半ば、隠修士として名声が高かった。彼についての記事をチマルパインは2度挿入しているが、その部分だけ全文スペイン語。詳しくは、拙稿『パリのチマルパイン』。
- <sup>26</sup> 正式名は「先住民の聖ヨセフ」 San José de los Naturales礼拝堂。サンフランシスコ修道院の境内に併設された7身廊の巨大な建物で、カール5世の追悼式などもここで行われた（Truitt）。
- <sup>27</sup> メキシコ市にはトラテロルコを含め5つの先住民教区があり、最初フランシスコ会が全教区を管理していたが、第2代大司教モントゥーフアルはその在俗化を図った。フランシスコ会はサンパブロとサンセバスティアンを奪われたが、残る教区を死守するため、その所有権の確認を副王に求めていた。
- <sup>28</sup> 1580年、2人のスペイン人が礼拝堂を建て、バルセロナ郊外モンセラット修道院のマリア像の複製を安置するよう遺言した。郊外に建設の予定だったが、病院を併設するため86年、市内に移設。
- <sup>29</sup> 『日記』冒頭4ページの1577年から89年8月5日まで（fol.17、18）はメキシコ国立人類学博物館が所蔵し、他はフランス国立図書館が所蔵（pp.1～284）。別々に所蔵される経緯は不明だが、早い段階でバラバラになりそうな状況だったことを窺わせる。
- <sup>30</sup> 正しくはフワン・ゴンサレス。1531年、先住民フワン・ディエゴがグアダルーペの聖母出現をスマラガ司教に報告した場に立ち会ったとされる。要職を歴任したが、64年以降、全てを捨て、この小さな礼拝堂で隠修士として暮した（Mendieta, pp.369～72）。この「異端審問官」の家は後出のアロンソ・デ・ボニージャ。チマルパインはウエウエトランとしているが、正しくはアウエウエトラン。
- <sup>31</sup> フランシスコ会士。先住民エリート向けのサンタクルス学院でラテン語を教授し、A・バレリアーノ（注42）など多くの優秀な弟子を育てた。アステカ文化や布教関連の著作多数。
- <sup>32</sup> 1580年にフェリペ2世とポルトガル王位を争ったクラートの修道院長を指すと思われるが、カルロスの子ではなく、ポルトガル王子の庶子。争いに敗れ、フランスやイギリスへ逃げ、アソーレス諸島を奪おうとしたが、メキシコへ渡ったことは確認されておらず、噂か流言の類か。
- <sup>33</sup> 聖体拝領の「聖餅」 hostia。トリエント公会議で、聖別されたパンはキリストの肉に変化するという実在説が確認され、その保存容器や顕示台（聖櫃）とともに信仰の対象になった。
- <sup>34</sup> メスティソはスペイン人と先住民の混血。チチメカ人はメソアメリカ文明圏の北側（メキシコ北部、北西部）の狩猟採集民の総称。非定住のチチメカ征服にスペイン人は手を焼いた。
- <sup>35</sup> トラスカラはコルテスに協力し、アステカ征服後も地方平定に精力的に協力。16世紀末、チチメカ狩猟民の定住化の補助、文化教育の手本として、トラスカラの400家族が北部へ移住した。
- <sup>36</sup> “pochteca” は本来、先スペイン期の長距離交易商人。この階層は比較的早くに没落したと思われる。ここでは先住民の一般の商人か、スペイン人の商人を指す。
- <sup>37</sup> スペイン出身のフランシスコ会士(1400～63)。1588年、トリエント公会議後、平修士として初めて列聖。ラテン語名はディダクスだが、ここでは通りの良いスペイン語名のディエゴにした。
- <sup>38</sup> “cohuatequiti” は互恵と再分配に基づく先スペイン期の労働徴発制度。ここでは、16世紀後半に導入された有償の強制割当て労働制度repartimiento（コアテキトルを改変した）を指す。
- <sup>39</sup> 西訳ではこれをタクーバに付く聖人名と考え、「サンガブリエル」の誤記とするが、『サンタクルス地図』（1555年）に描かれたチャプルテペクの丘の上のサンミゲル教会を指す。
- <sup>40</sup> “tecpan” は先住民行政政府が入る建物。先スペイン期からあったが、16世紀半ばに行政長、判事、市会などから成るスペインの行政組織が先住民の町村に導入され、その建物もこう呼ばれた。
- <sup>41</sup> サンパブロ教会は最初フランシスコ会が管理したが、1562年、大司教モントゥーフアルが取り上げて在

- 俗司祭に任せたが、75年にはアウグスティヌス会の手に入った。
- <sup>42</sup> アスカポツァルコ出身の先住民貴族。サンタクルス学院でエリート教育を受け、出身地の行政長などを歴任。サアグン(注31)の調査・執筆を手伝い、73年から20年超、メシコ行政長。
- <sup>43</sup> チナンパchinamitlは浅い湖の湖底の泥を盛土して作った生産性の高い畑。テスココ湖の南にある淡水のショチミルコ湖、チャルコ湖の一角をチナンパ地帯chinampanと呼ぶ。
- <sup>44</sup> テスココ湖西岸一角を居住地とした民族で、その中心都市の1つタクーバはアステカの三都市同盟の一翼を担った。アスカポツァルコは彼らの古都。
- <sup>45</sup> 1530年代、エンコメンデロ勢力を抑えるため、エンコミエンダを取り上げ、その補償として彼らを地方役人(コレヒドール)に任命した。その後、エンコメンデロ階層の衰退に伴い、コレヒドールの判事としての権威が拡大した。メキシコ盆地内のコレヒドール管区は1550年代に9つ、70年代には12に増えた。任命権者は副王もしくは国王。
- <sup>46</sup> 副王宮殿の南側の広場。ボラドール儀式(高い棒に5人が登り、棒の先端に巻き付けたロープと足首を繋ぎ、4人は逆さ吊りで回りながら降り、1人は先端の箱の中で踊り、演奏した)が行われた。
- <sup>47</sup> テスココ湖南部の4つの領主国、クルワカン、イスタパラパ、メシカツィンコ、チュルプスコを指す。西訳は「ショチミルコの4人の領主」としているが、ショチミルコは3人領主制だった。
- <sup>48</sup> 鷲とノバルは神話に出てくるテノチティトラン建設の象徴で、現国旗にも描かれている。
- <sup>49</sup> チマルパインは作品でよく自身に言及する。詳しくは、拙稿『チマルパインと「ドン」』。
- <sup>50</sup> 先住民共同体で問題が起こると、副王は地元出身の行政長に代えて、他の町出身者を法官として派遣し、16世紀末には「法官 - 行政長」という肩書を与えた(1599年の項を参照)。
- <sup>51</sup> メシコ異端審問官(1573~92)。メシコ大司教に推挙され、任命手続きのため帰国。その際、ペルー巡察官を拝命し、赴任。大司教としてメキシコに戻ることなく、ペルーで客死。
- <sup>52</sup> 「火と水」“tlachinolli (teo)atl”は先スペイン期の「戦争」の象徴。また、ノバルサポテンに家系図を描く手法は『ガルシア・グラナードスのテチアローヤン絵文書』などでも見られる。
- <sup>53</sup> ゲラではなく、ゲレロが正しい。
- <sup>54</sup> カカオ豆は先スペイン期に少額貨幣として使われ、植民地時代にも主に先住民の間で流通した。
- <sup>55</sup> “izcahuiltl”は湖に棲む虫で、食用に供された。
- <sup>56</sup> 身寄りなき人々の病院は1582年、貧しいメスティソのためにペドロ・ロペス医師が建てた。王立病院は複数あるが、ここはペドロ・デ・ガンテ師が作った先住民病院。横根病院は梅毒患者のため、初代司教スマラガが創設(神の愛病院とも)。サンイポリトは精神病院。いずれも付属教会あり。ウィツィランはコルテスが作ったイエス病院やサンタモニカ女子修道院があった地区。
- <sup>57</sup> 1589年8月、94年2月にも言及があるが、チマルパイン情報には混乱が見られる。この教会については他に情報が少なく、かつ微妙なずれがある(Vetancurt, Alfaro Peña)。
- <sup>58</sup> チマルパインのいたサンアントニオ・アバー「聖アントニオス修道院長」教会は本来、看護修道会の聖アントニオス会に所属するはずだが、スペイン本部から同会修道士が来るのは1628年。
- <sup>59</sup> “eloquiltic”は「緑の若いトウモロコシ」、”tletlemaitl”は顔の染みを取るために服用した。
- <sup>60</sup> 緑はメソアメリカで最も高貴な色とされ、緑色の十字架は宇宙の中心にあったとされる緑の宇宙樹を先住民に想起させたであろう。
- <sup>61</sup> 「新しいメシコ」Yanquic Mexicoつまり「ヌエボ・メシコ」は現在のアメリカ合衆国ニューメキシコ州を中心とする北部一角を指す。矛盾する「古きHuehue」をチマルパインが付けたのは、アステカ(メシカ)人の故地アストランがメキシコ北部にあるとする通説を彼も信じていたことを示す。
- <sup>62</sup> 信者の側から見て教会の右側を指す。左側は使徒書簡の側。
- <sup>63</sup> 異端審問の判決は公の場で言い渡され、有罪者の火刑も行われた。物故者や逃亡者が有罪判決を受けた場合、その人たちの人形や遺骨が焼かれた。この年のアウトではヌエボ・レオン前総督の故ルイス・デ・カルバルの一族などが隠れユダヤ教徒として火焙りになった。
- <sup>64</sup> ポーランド出身のドミニコ会士(12世紀末~13世紀半ば)で、1594年に列聖。
- <sup>65</sup> 征服の過程でスペイン人は一度、テノチティトランから追い出された(1520年6月30日深夜)。その夜、何とか脱出したスペイン人が持ち出した聖母像を埋め、後にそこトルテペクに聖堂が建てられた。この聖母像は雨乞いの時にしばしばメキシコ市に運ばれてきた。
- <sup>66</sup> 長崎の二十六聖人の殉教のこと。メキシコ生まれのフェリペ・デ・ヘススなど跣足フランシスコ会士6

人、イエズス会士3人が含まれた。クエルナバカ大聖堂にも殉教の大壁画が残っている。

<sup>67</sup> メキシコ市のスペイン人教区は最初スペイン人居住区traza内だけで、大聖堂がSagrario教区教会を兼ねたが、1568年、スペイン人人口の増加に伴い、先住民の「区」にも進出し、市内西部のサンタベラクルス教会と北部の殉教者サンタカタリーナ教会を中心とする教区ができた。

【参考文献】

- Alfaro Peña, Luis *Relación descriptiva de la fundación, dedicación ... de las iglesias y conventos de México*, México (Biblioteca UDLAP), 1863
- Bibliothèque Nationale de France *Diario de Dn. Domingo de San Antón Muñón Chimalpahin*, No. 220, Source gallica. bnf. fr., Département des Manuscrits (オリジナル)
- Chimalpáhin, Domingo, *Diario*, traducción por Rafael Tena, CONACULTA, México, 2001 (西訳)
- Chimalpahin Quauhtlehuanitzin, don Domingo, *Annals of His Time*, translated by James Lockhart, Susan Schroeder, and Doris Namala, Stanford University Press, 2006 (英訳)
- García Quintana, Josefina y Víctor M. Castillo Farreras “Estudio Preliminar” al *Tratado curioso y docto de las grandezas de la Nueva España de Antonio de Ciudad Real*, UNAM, 1993
- González González, E “Un espía en la Universidad. Sancho Sánchez de Muñón, maestrescuela de México” en M. Menegus (coord.) *Saber y poder en México. Siglos XVI al XX*, UNAM, 1996
- León-Portilla, Miguel y Carmen Aguilera *Mapa de México Tenochtitlan y sus contornos hacia 1550*, México, 2016 (『サンタクルス地図』)
- Mendieta, Gerónimo de *Historia eclesiástica indiana*, Porrúa, 1971
- Mundy, Barbara E. *The Death of Aztec Tenochtitlan, the Life of Mexico City*, U. of Texas, 2015
- Muriel, Josefina *Hospitales de la Nueva España*, 2 vols., UNAM, 1970
- Otalora Montage, Javier “El caso del Cristo de Totolapan Interpretaciones y reinterpretaciones de un milagro”, *Estudios de Historia Novohispana* 38, 2008
- Poole, Stafford *Pedro Moya de Contreras Catholic Reform and Royal Power in New Spain, 1571- 1591*, University of California, 1987
- Ramírez Méndez, Jessica “La trama seglar en torno a una fundación conventual. El monasterio de Santa Clara en la ciudad de México, 1566-1580”, en *Invertir en lo sagrado*, Roberto Di Stefano y Alicoha Maldavsky (comp.), Universidad Nacional de Pamplona, 2018
- Rubial García, Antonio “Orígenes milagrosos y nuevos templos : Imágenes y espacios sagrados en la ciudad de México, siglo XVII y XVIII”, *Boletín de Monumentos Históricos*, n. 34, 2015
- Rubial García, Antonio (coord.) *La Iglesia en el México Colonial*, UNAM & BUAP, 2013
- Sánchez Reyes, Gabriela “Sobre la ruina y desaparición del pueblo y el santuario de la Piedad de la Ciudad de México en 1942”, *Boletín de Monumentos Históricos*, n. 44, 2018
- Traslosheros, Jorge E., “Los indios, la Inquisición y los tribunales eclesiásticos ordinarios en Nueva España. Definición jurisdiccional y justo proceso, 1571- c.1750”, en *Los indios ante los foros de justicia religiosa en la Hispanoamérica virreinal*, UNAM, 2010
- Truitt, Jonathan G. *Nahuas and Catholicism in Mexico Tenochtitlan: Religious faith and practice and La Capilla de San Josef de los Naturales, 1523-1700*, UMI, 2009
- Vetancurt, Fr. Agustín de *Teatro mexicano*, Porrúa, 1971
- 篠原愛人 「チマルパインと1608年」、『撰大人文学』、第22号、pp.1～35、2015  
 「チマルパインと「ドン」」、『撰大人文学』、第24号、pp.1～29、2017  
 「パリのチマルパイン」、『撰大人文学』、第25号、pp.1～29、2018

(篠原愛人 撰南大学名誉教授)

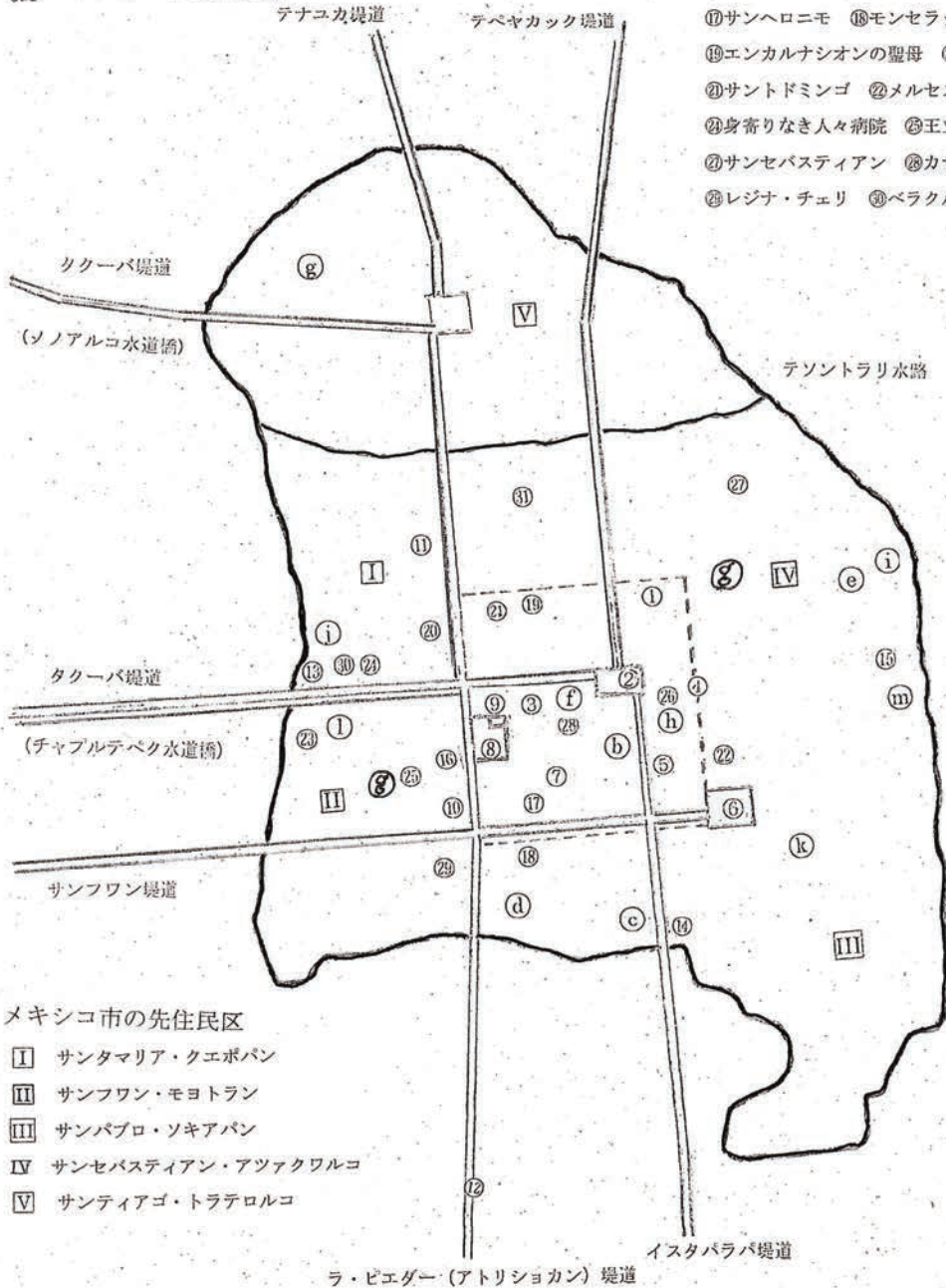
地図1 16世紀後半のメキシコ市

メキシコ市の先住民居住区（トラシラカリ）など

- メキシコ市の先住民居住区（トラシラカリ）など
- ㊦ベトラカルコ ㊧ウィツイラン ㊨ショロコ
  - ㊩デキシキバン ㊪アクランサ(武器工場) ㊫王宮牢
  - ㊬アキカルティラン ㊭ボラドール広場 ㊮トマトラン
  - ㊯テオカルティラン ㊰トサニトラン
  - ㊱ウエウエカルコ ㊲サンラサロ・アカルカルティラン
- ㊳ トラサ (スペイン人居住区)

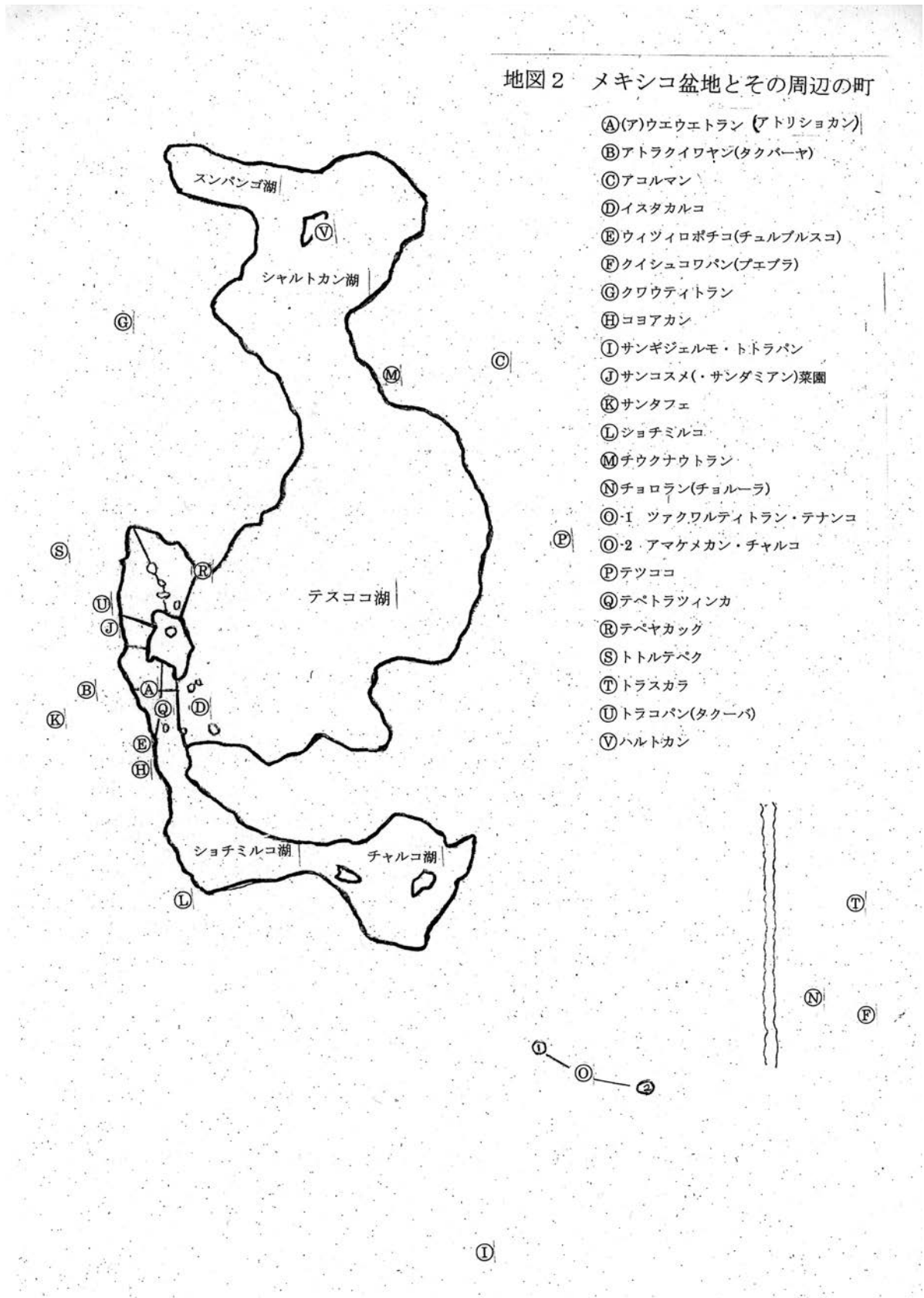
メキシコ市の修道院、教会など（登場順）

- ①イエズス会教会 ②大聖堂 ③サンタクララ
- ④(サンティシマ・)トリニダー ⑤サンタモニカ
- ⑥サンパブロ ⑦サンアグスティン
- ⑧サンフランシスコ ⑨サンホセ ⑩サンフワン
- ⑪サンタマリア ⑫聖母ご訪問(ラ・ビエダー)
- ⑬サンイポリト ⑭サンアントニオ・アパー
- ⑮サンラサロ ⑯サンフワン・デ・ラ・ベニテンシア
- ⑰サンヘロニモ ⑱モンセラット
- ⑲エンカルナシオンの聖母 ⑳コンセプション
- ㉑サントドミンゴ ㉒メルセス ㉓サンディエゴ
- ㉔身寄りなき人々病院 ㉕王立病院 ㉖横根病院
- ㉗サンセバスティアン ㉘カサ・プロフェサ
- ㉙レジナ・チェリ ㉚ベラクルス ㉛サンタカタリーナ



- メキシコ市の先住民区
- I サンタマリア・クエボパン
  - II サンフワン・モヨトラン
  - III サンパブロ・ソキアパン
  - IV サンセバスティアン・アツアクワルコ
  - V サンティアゴ・トラテロルコ

地図2 メキシコ盆地とその周辺の町



地図3 メキシコ、中米の司教区と司教座都市

